



「勇往堅実！」 ～百年に一度の危機を乗り越えよう～

徳島県知事 飯泉 嘉門

「百年に一度の経済危機」。アメリカの金融危機に端を発した「世界同時不況」が、徳島県内の企業実績や雇用情勢にも深刻な影響を及ぼしています。このような状況だからこそ、くじけずに元気を出して、目的に向かって手堅く着実に進む「勇往堅実」さが求められています。平成二十一年度は、これを実行し将来を展望するための明るさを感じていただけるような予算を編成しました。

まず、平成二十一年一月臨時議会においては、総事業費約百八十八億円に上る補正予算を編成するとともに、平成二十一年度当初予算を合わせた「十五ヵ月予算」として、予算総額では約四千六百六億円、平成二十年度当初予算と比べて金額で約七十二億円、率にして一・六％上回る八年ぶりの増額予算を編成し、前倒しで実施できるものについては速やかに予算化して、できる限り迅速な対応を行うことで、県内の経済・雇用の回復を一日でも早く目指すこととしました。

特に、「県内で二千人以上の雇用を創出する」経済・雇用対策を始め、「医師不足対策」など医療・福祉施策、「建物の耐震化」など安全・安心への取組みを進めるとともに、「高速道路の画期的な料金引き下げという大きなチャンス」を生かすための新たな「にぎわいの創出」にも積極的に取り組みます。

また、公共事業においては、国の臨時交付金などを最大限活用し、経済・雇用対策

として積極的に取り組むため、平成二十年度予算を上回る規模を確保するとともに、特に生活に密着した、きめ細やかな「県単独事業」の予算を前年度比で二二〇％を超える規模を確保しました。さらに、公共事業のうち中山間地域での比率も前年度の五九％から六三％にアップし、中山間地域の活性化にも取り組んでいます。

◇平成二十一年度当初予算の特色

①「ふるさと徳島への人材回帰」

県外で職を失った方を農山漁村や産業を担う人材として徳島に受け入れ、経済活性化を図るため、農業未経験者の就農を支援する「認定帰農者支援事業」を始めとした「農山漁村ふるさと回帰プロジェクト」や、小売・飲食業などを創業する方に開業費用の一部を助成する「ふるさとショップ開業支援事業」を始めとした「産業人材ふるさと回帰プロジェクト」に取り組めます。

②「地域医療を守る医師の確保」

休日・夜間の救急医療を担う救急勤務医や、分娩を取り扱う産科医を確保するため、これらの医師について、業務手当支給による処遇改善を実施する医療機関に対して助成を行い、また、産科を志望する若手医師などを確保するため、専門研修で産科を選択する後期研修医について、研修手当支給による処遇改善を実施する医療機関に対して助成を行う「救急勤務医・産科医確保支援事業」など、医師不足対策に一層の力を注ぎます。

③「本四架橋を夢のかけ橋に」

「土日祝日の普通車料金・千円で乗り放題」を始めとする高速道路新料金を最大限活用し、「県外からの観光誘客」と「物流の活性化」を図るため、全国に先駆けて「高速道路新料金活用戦略」を策定しました。戦略では、まず「近いよ！徳島」という共通口ゴマークを作成するとともに、近畿圏に新聞広報などで徳島の魅力をPRする「夢のかけ橋利用促進PR事業」を始め、六十三の事業に取り組み、「観光入込客数」及び「大鳴門橋通行台数」の倍増に挑戦します。

さらに、「徳島ならではのイベントとして、十月三日からの一ヵ月間を「阿波人形浄瑠璃月間」と位置付け、徳島の人形浄瑠璃の魅力を満載した「ジョールリ100公演」を開催し、全国に徳島の魅力を発信します。

◇飛躍する「とくしまトクトク事業」

限られた財源の中で、予算規模では計ることができない実質的な県民サービスの向上を図るため、県民が持つノウハウ、パワー、ネットワークなどを最大限に生かす「トクトク事業」を展開し、県の創意工夫と県民の皆さんの積極参加を基本とする「二十一世紀の新しい行政のかたち」づくりを、これまで以上に推進していきます。こうした、全庁挙げての創意工夫や見直しにより、とくしまの未来に向けて、「勇往堅実」を合い言葉に、県民の皆さんとともに、「徳島飛躍への道」をしっかりと前進してまいります。